

秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科（博士課程）3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科は、大学の理念に基づき以下の能力を備え、かつ所定の単位を修得した学生に対して、博士（美術）の学位を認定します。

- 1 複合の視点からモノ・コトを要素単位で分析、解析し、現代芸術に限らず、社会的な課題等に関しても事象の本質を捉える能力
- 2 表現と理論の双方から多面的にモノ・コトを捉えながら、発想の転換や理論の応用をもとに、現代芸術および社会に新しい視点を提示できる能力
- 3 複合の視点からの学際的な研究に取り組み、その成果を社会に発信・適用していくことで、人々を巻き込みながら現代芸術や地域を牽引していく能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本課程の教育目的達成に向けた基本的な教育課程編成等の考え方を、以下にカリキュラム・ポリシーとして示す。

- 1 モノ・コトの複合性を要素単位で紐解く自立した研究を通じて、自らの分析力と解析力で現代芸術のみならず社会的事象の本質を捉える力を養う。
- 2 表現と理論双方からの研究を通じて、複合の視点に基づく発想の転換や理論の応用を新たな表現や課題解決策につなげる力を養うとともに、表現と理論が相互に裏付けされた研究成果を導く。
- 3 複合の視点からの研究を通じた表現や理論の成果を社会に広く発信する力と、実社会に適用させ人々を巻き込む求心力を養う。

<学修成果の評価>

学修成果は、研究展開科目・研究指導科目における時間外制作時間も含めた成果をもって評価します。また、「博士論文」又は「博士論文および制作・活動の成果物」の提出資格の条件となる「査読付き論文」や「審査を経て展覧会等に採用された作品等」も含めて学修成果を評価します。授業の到達目標や内容、成績評価方法、基準等をシラバスで明示し、厳正で客観的な成績評価を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本課程は、現代芸術を「複合の視点」から理論化を試みる研究を行うことで、現代芸術領域および社会に新鮮な視点や思考の転換を発信し、新たな道筋を示しながら現代芸術領域の拡張と持続可能な社会の構築に広く貢献する表現者、リーダーおよび研究者を育成することを教育目的とする。

この目的を達成するために本課程が求める人材像は次のとおりとする。

- 1 複合の視点から自立した研究に取り組み、表現手法の拡張や現代芸術の理論化を探究していく人

- 2 モノ・コトの成り立ちを解析し、領域を横断する高い観点から、自らの創造性や思考の転換に基づく成果によって、芸術領域および社会に新たな価値を提示する人
- 3 現代芸術の研究を通じて、複合の視点からの理論化に取り組み、「複合芸術」の体系化を担っていく意欲のある人

<入学前に修得しておくことを期待する内容>

- 1 自身の研究分野についての知識や動向に関する理解
- 2 自身の研究分野と接続する他の学術分野・実践分野の知識や動向に関する理解
- 3 研究内容およびその学術的意義を的確に他者に伝えることのできる表現力
- 4 地域や社会で生じている課題に対する領域横断的な思考力

<求める人材像>

複合芸術の研究を通じて、新たな文化価値の創出に取り組む意欲のある人を求めます。さらに、異なる領域の実践と理論の複合を通じて社会的課題の解決を目指す人を求めます。